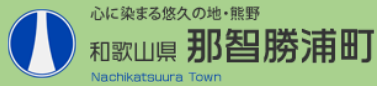


## 那智勝浦町色川地区



中山間地域における地域ハブ（HUB）の役割と可能性を考える



### 色川地区について

那智勝浦町色川地区は、那智勝浦町の中心部から山間部へ車で30分ほど走った所に位置する、9つの区から成る、人口が300人ほどの小さな地域です。かつて盛況していた鉱業が1970年代に廃止となり、地域の人口は外部へと流出していきましました。しかし、同時期より外部からの移住者を積極的に受け入れ、現在では地区全体の人口のおよそ半分を移住者が占めるまでになりました。ただ、LPPの活動を主に行っている小阪区は、他区と比べ移住者は少なく、その代わり地域の行事や風習が比較的残っている地域となっています。地域資源としては、美しい棚田や茶畑が有名です。特に「小阪の棚田」は、一度休耕田となった棚田を移住者を含む地域住民が主体となり再興させ、現在も関係人口の方々などを交えた保全活動が定期的に行われています。



### LPP活動について

2016年度から活動を行ってきた那智勝浦町色川地区におけるLPPは、色川ならではの行事や風習への参加（フィールドスタディ）を通し、学生の知見を深めることを中心に活動を行ってきました。また、活動を通して「学生が感じたこと」を地域住民に発表する場を設けることで、住民のいわゆる「鏡効果」醸成にも寄与してきました。2023年度は、これまでの活動をベースにしつつ、棚田などにまつわる地域の課題解決に向けた具体的なアクションを起こすことで、地域の課題を「自分ごと」にする取り組みも予定していました。

### 活動報告

今年度は昨年度よりも現地に行く回数を増やすことができました。地域の伝統行事に参加したり、棚田サミットに携わったりしたことで、たくさんの人との関わりを持つことができました。現地の方々的那智勝浦町色川地区に対する思いを実感することができ、中山間地域について深い学びを得られました。来年度は今年度の学びを活かし、地域ハブの役割を明確化する活動と可能性を見出す活動を積極的に行いたいと考えています。

#### らくだ舎訪問

6月4日に顔合わせを兼ねて色川よろず屋・らくだ舎訪問を行いました。らくだ舎で提供される料理の食材には色川産のものを積極的に使う、らくだ舎を訪れた人々と近い距離で交流をするなど色川ならではの特色が見られました。色川で人と人を繋ぐ大きな役割を果たす場所であると感じました。



#### 宮祭り参加

宮の倉庫に保存されている資料を見せてもらいながら今の色川地区に至るまでの経緯を住民の方に説明していただき、色川について深く知ることができました。宮祭り後に行われた交流会にも参加し住民の方との交流を通して棚田や集落の現状についても知り中山間地域についての理解が深まりました。



#### 棚田サミット

11月18日、19日の2日間にわたって、全国棚田サミットが那智勝浦町で開催されました。私たち学生は、1日目は色川の特産品の販売や分科会の参加、2日目は引き続き特産品の販売、そして、しめ縄づくりや餅つき体験のお手伝いをさせて頂きました。全国各地の棚田保全に関わる方と交流ができ、とても貴重な経験になりました。また、開催地となった色川の方からのお話も聞くことができ、このイベントの本質について考えることが出来ました。

